

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101935		
法人名	社会福祉法人 やまなし勤労者福祉会		
事業所名	グループホームわがや		
所在地	甲府市若松町6-35		
自己評価作成日	令和 5年 2月 2日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5年 3月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「生きる力を支える介護」という基本理念をもとに「その人の生きる力」とは、「その人らしさ」とはをことあるごとに職員間で話し、その人に合わせたケアのあり方、進め方、支援方法の模索を行い実践に繋げている。また最期までその人らしさをたもち、その人の生活を支えられるよう医療をはじめとした、各職種と連携を図りチームケアを行っている。②職場会議において入居者の現状を把握、分析し重度化してもわがやで安心して暮らせるような対応を行っている。③コロナ禍で地域行事に参加が出来ていないが、地域に対して新聞等で、施設の行事の紹介等を行っている。また地域、自治会ともコロナ後の行事の開催についての話をしている。2年前からオレンジカフェを開催しており、認知症の理解を深めることと、地域の方の健康増進と人との交流ができる場を大切にしている。④施設全体で事例検討会を行い日々のケアの振り返りの場を作っている。介護の質を高める為に、内外部の研修に積極的に参加している。⑤学生実習を積極的に受け入れている。⑥食事やおやつは入居者の希望を取り入れ、入居者の力を引き出しながら、一緒に片付けもしている。⑦職員は日常生活の中で気が付いたことを報告し、共有、分析し危険予測の向上と介護の質を高める努力をしている。⑧ご家族と話し合いながら、最期までその人らしくアットホームなわがやで過せる支援を行っている。

○事業所は「生きる力を支える介護」の理念の下で、利用者が最期まで安心して過ごせるよう、家族の理解と協力、法人全体で利用者を支える体制を構築して終末期ケアが実施されており、今日まで多くの利用者を見ています。同じグループホームでも、継続的な医療ケアができないがために、転院等を余儀なくされる利用者があることを考えると、看取りのニーズに応えていける事業所のニーズは高まってくると言えます。これからも引き続きご尽力をお願いします。○事業所内の敷地にて菜園が行われています。土に親しみ、野菜を作ることは多くの高齢者にとっては、過去の暮らしの中で普通にされていたことかと思えます。野菜を育て収穫する楽しみの場を、これからも大切にしていって下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームわがや	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(①)	ユニット名(②)	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生きる力を支える介護」の理念のもと、個人個人の思いに寄り添った介護の提供を行っている。その人らしく過ごせるように日々職員間での情報共有や職場会議で支援、援助方法の確認、実践を行っている。入居者さんが地域の中で元気にいつまでも過ごせるように、地域行事・ご近所付き合いを行い、安心して過ごせるようにする。	「生きる力を支える介護」の理念のもと、個人個人の思いに寄り添った介護の提供を行っている。その人らしく過ごせるように日々職員間での情報共有や職場会議で支援、援助方法の確認、実践を行っている。入居者さんが地域の中で元気にいつまでも過ごせるように、地域行事・ご近所付き合いを行い、安心して過ごせるようにする。	「生きる力を支える介護」の実践に向けて、日々の暮らしの中から、利用者の自己選択や自己決定を、家族からの要望や地域生活との繋がりを大切にしながら支援しているとの話を伺いました。理念は職員の入職時に研修の場を設けたり、中堅職員に対しても実施しています。理念の実践に向けて、各事業所毎に目標がたてられています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナかで開催されていないが、地域の運動会や文化祭には参加を行っていた。今年度は地域の行事(味噌づくり、和太鼓の演奏会)へ参加し顔見知りになり交流も図れている。回覧板・施設独自の新聞を配布し地域との交流を行っている。	コロナかで開催されていないが、地域の運動会や文化祭には参加を行っていた。今年度は地域の行事(味噌づくり、和太鼓の演奏会)へ参加し顔見知りになり交流も図れている。回覧板・施設独自の新聞を配布し地域との交流を行っている。	事業所は自治会に加入しており、組としての役割を担っています。味噌づくりでは、地域の婦人部の協力で職員と利用者が参加され、出来上がった味噌は事業所で使われています。事業所の広報誌は、組の回覧板や他の自治会にも配布されています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流として、オレンジカフェの実施を行っている。また、地域の方の介護に関する困りごとなどの相談・対応方法など施設体験も行う。	地域の方との交流として、オレンジカフェの実施を行っている。また、地域の方の介護に関する困りごとなどの相談・対応方法など施設体験も行う。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催を行っている。入居者さんへのサービス提供の状況、日々の様子を新聞におこし、言葉と写真を交え報告している。ご家族、地域の民生委員、第三者委員、他施設、地域包括の方の参加者もあり、忌憚ないご意見、アドバイス・助言を頂き実践に取り入れている。	2か月に1回開催を行っている。入居者さんへのサービス提供の状況、日々の様子を新聞におこし、言葉と写真を交え報告している。ご家族、地域の民生委員、第三者委員、他施設、地域包括の方の参加者もあり、忌憚ないご意見、アドバイス・助言を頂き実践に取り入れている。	運営推進会議には様々な立場の方が参加されています。コロナ下であり、事業所の情報報告の形がとられています。運営推進会議より、他事業所で実施しているコロナ禍における活動内容を参考に、大阪出身の利用者の案から、おはき作りを取り入れたり、寒い日のほうとう作り等、食に対する楽しみの場面を取り入れています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運給推進会議には、包括支援センターの職員の方の参加をして頂いている。市役所の方へも議事録を送っている。運営推進会議時には包括の職員の方、知見を有する方と共に事例を通し認知症について学ぶ機会を持ち、安心して住めるまちづくりについて学んだ。	運給推進会議には、包括支援センターの職員の方の参加をして頂いている。市役所の方へも議事録を送っている。運営推進会議時には包括の職員の方、知見を有する方と共に事例を通し認知症について学ぶ機会を持ち、安心して住めるまちづくりについて学んだ。	市町村の地域包括センターの職員とは、コロナ禍における面会や感染症安全対策について、他事業所の取り組みについて情報交換をしています。認知症の事例研修では、入所されている家族に対して、認知症の受け止め方や接し方について学ぶ機会が持たれました。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の学習会を定期的に行い職員が身体拘束における高齢者の心身の動きや行った際の刑罰を理解し、身体拘束を行わない取り組みを行っている。職員間においてもお互いのケアや行動を制限するような言葉については、意識して対応を行っている。	身体拘束の学習会を定期的に行い職員が身体拘束における高齢者の心身の動きや行った際の刑罰を理解し、身体拘束を行わない取り組みを行っている。職員間においてもお互いのケアや行動を制限するような言葉については、意識して対応を行っている。	久しい関係から馴れ馴れしい言葉使いにならない事とスピーチロックには意識して取り組んでいます。年に2回、身体拘束に関わる学習会を実施しています。1階は防犯上鍵をかけているが、生活の場である3階には鍵をかけず、見守りによる支援が行われています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習会を定期的に行っている。虐待の内容についても心身に関わるものだけでなく、金銭的な問題もあることも学習をし理解ができている。	虐待防止の学習会を定期的に行っている。虐待の内容についても心身に関わるものだけでなく、金銭的な問題もあることも学習をし理解ができている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	民医連の綱領にもある無差別平等の観点からも、人権、権利擁護についての学習や研修会への参加を行い学んだことを職場にフィードバックを行っている。	民医連の綱領にもある無差別平等の観点からも、人権、権利擁護についての学習や研修会への参加を行い学んだことを職場にフィードバックを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項、利用契約書、運営規定、利用料金、利用者の権利・倫理、重度化時の指針、看取りの指針等の説明を行い、納得して頂いた上での契約を行っている。また、看取り等の指針については、ご家族の思いの変化に対してもご意見を伺い適時の対応もしている。	契約時に重要事項、利用契約書、運営規定、利用料金、利用者の権利・倫理、重度化時の指針、看取りの指針等の説明を行い、納得して頂いた上での契約を行っている。また、看取り等の指針については、ご家族の思いの変化に対してもご意見を伺い適時の対応もしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(①)	ユニット名(②)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関りの中から話しやすい環境を作れるよう心掛けている。意見や要望を伝えきれない方などは、表情や仕草も観察し対応を行っている。ご家族に関しては、気軽に話せる関係性の構築を行い、面会時や物品の依頼時の電話等でご家族の意見や要望を聞く機会を設けている。それらを通しわがやの運営に反映し支援を行っている。	日々の関りの中から話しやすい環境を作れるよう心掛けている。意見や要望を伝えきれない方などは、表情や仕草も観察し対応を行っている。ご家族に関しては、気軽に話せる関係性の構築を行い、面会時や物品の依頼時の電話等でご家族の意見や要望を聞く機会を設けている。それらを通しわがやの運営に反映し支援を行っている。	利用者の意見や要望は、ゆったりとした時間の中でソファに座る等、利用者の表情や仕草、手や目の動きから思いを受け止め、実際に試しながら判断しています。家族から看取りの際の付き添いの要望があり、利用者と一緒に過ごせるよう対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は個々職員に対して定期的な面談を行っている。また利用者家族が要望を伝えやすい環境、関係性作りも行っている。必要時には、スタッフ会議を行い、月2回の職場会議にて意見交換を行っている。日常の中でも要望や意見はその都度聞き、支援や運営に生かしている。	管理者は個々職員に対して定期的な面談を行っている。また利用者家族が要望を伝えやすい環境、関係性作りも行っている。必要時には、スタッフ会議を行い、月2回の職場会議にて意見交換を行っている。日常の中でも要望や意見はその都度聞き、支援や運営に生かしている。	子どもがいる職員に対して勤務時間等を融通し、仕事が続けられる仕組みを設けています。定期的な面談では、職員が希望するスキルに応じた研修を計画的に実施しています。職員が、担当する利用者とは出することを気軽に提案でき、実施できる環境が育まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	相談しやすかったり、困っていることはあるか、職員一人ひとりと関わる時間を大切に、職員が働きやすい環境を作っている。教育、研修制度が確立しており各階層キャリアに合わせたキャリアアップができ、それに伴った、就労環境、働きやすい環境を作っている	相談しやすかったり、困っていることはあるか、職員一人ひとりと関わる時間を大切に、職員が働きやすい環境を作っている。教育、研修制度が確立しており各階層キャリアに合わせたキャリアアップができ、それに伴った、就労環境、働きやすい環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では、研修員会の主催の下、介護過程、介護技術の階層ごとの研修を行っている。また外部の資格取得の研修、キャリアアップの学習会にも参加している。研修や学習会の内容についても介護の分野だけでなくメンタルヘルスや生産性向等の研修会へも参加している。	事業所内では、研修員会の主催の下、介護過程、介護技術の階層ごとの研修を行っている。また外部の資格取得の研修、キャリアアップの学習会にも参加している。研修や学習会の内容についても介護の分野だけでなくメンタルヘルスや生産性向等の研修会へも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職能団体での活動を通じ、同じ介護職でも施設分野が違う方々との交流や学習会、座談会を行い、相互間の情報交換だけでなく、困りごとの相談やコロナ禍での施設運営や利用者対応の手法の意見交換もしている。それらの情報を使いサービスの向上や安全な運営の取り組みを行っている。	職能団体での活動を通じ、同じ介護職でも施設分野が違う方々との交流や学習会、座談会を行い、相互間の情報交換だけでなく、困りごとの相談やコロナ禍での施設運営や利用者対応の手法の意見交換もしている。それらの情報を使いサービスの向上や安全な運営の取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて貰えるようご本人の言葉をしっかりと受け止めその思いに寄り添っている。入居に至るまでの生活を面談、記録などから理解し把握するよう努めている。面談時も話しやすい雰囲気作りを心掛け、信頼して頂けるように努めている。	新しい環境に慣れて貰えるようご本人の言葉をしっかりと受け止めその思いに寄り添っている。入居に至るまでの生活を面談、記録などから理解し把握するよう努めている。面談時も話しやすい雰囲気作りを心掛け、信頼して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から直接お話を伺い、何に困っているのか、不安なことないか、これから先の生活への思いを聞かせて頂いている。またわがやの生活をする中で家族の思い、希望、要望を聞き、サービスに取り入れるよう努力もしている。	ご家族から直接お話を伺い、何に困っているのか、不安なことないか、これから先の生活への思いを聞かせて頂いている。またわがやの生活をする中で家族の思い、希望、要望を聞き、サービスに取り入れるよう努力もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至るまで入居者さんやご家族の状況、生活歴を伺いながら、アセスメントを行い介護支援を展開している。また必要時には、関係機関と連携をとり、チームケアとして支援させて頂いている。	入居に至るまで入居者さんやご家族の状況、生活歴を伺いながら、アセスメントを行い介護支援を展開している。また必要時には、関係機関と連携をとり、チームケアとして支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設を生活の場と捉え、その方の得意分野を生かした活動も行ってもらっている。生活を送るなかで共に同じ時間を共有し、喜怒哀楽をお互いが出せる関係性を築いている。	施設を生活の場と捉え、その方の得意分野を生かした活動も行ってもらっている。生活を送るなかで共に同じ時間を共有し、喜怒哀楽をお互いが出せる関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中で気づいたことは家族に伝え、状況をお話しする。ご家族も同様の支援が出来るように説明し、家族の理解も得ながら関係性を作っている。	生活の中で気づいたことは家族に伝え、状況をお話しする。ご家族も同様の支援が出来るように説明し、家族の理解も得ながら関係性を作っている。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームわがや		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(①)	ユニット名(②)	実践状況
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで難しい面もあるが、短時間で面会ができる環境作り、電話での会話、年賀状やお手紙でのやり取りを行い、関係性が途切れないように支援を行っている。	コロナで難しい面もあるが、短時間で面会ができる環境作り、電話での会話、年賀状やお手紙でのやり取りを行い、関係性が途切れないように支援を行っている。	入居前から関わりのあった民生委員や、働いていたところの会社の部下、昔からの友達等との関係が継続されています。また、入居前からの馴染みの店で買い物したりと、馴染みの場所との関係性を大切にしています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士でお話ができる環境、時には居室のベットに座っての語らいや、一緒に家事や、作業、趣味活動を行うことで同じ思いを感じてもらえるよう支援を行っている。	気の合う方同士でお話ができる環境、時には居室のベットに座っての語らいや、一緒に家事や、作業、趣味活動を行うことで同じ思いを感じてもらえるよう支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族の方も気にかけて下さり、時期時期に遊びに来てくださっている。事業所で必要と思われる物品の支援やイベントへの参加も行って頂いている。介護に関しての相談事も行っている。	退居された家族の方も気にかけて下さり、時期時期に遊びに来てくださっている。事業所で必要と思われる物品の支援やイベントへの参加も行って頂いている。介護に関しての相談事も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングのさいには本人の思い、気持ち、家族からの希望をプランに反映している。職員も日常生活、関りの中からご本人の思いを聴ける時間を作り、必要な支援をおこなっている。日々さりげない会話の中にも思いが出るので、記録や職場会議の中で情報共有を職員間で行っている。	モニタリングのさいには本人の思い、気持ち、家族からの希望をプランに反映している。職員も日常生活、関りの中からご本人の思いを聴ける時間を作り、必要な支援をおこなっている。日々さりげない会話の中にも思いが出るので、記録や職場会議の中で情報共有を職員間で行っている。	利用者の思いや意向は、ゆったりとした時間の中で、様々な手法で引き出すよう工夫しています。集約した内容は会議に諮ってモニタリングを行い、介護計画に反映しています。また、関わりの中から把握した利用者の思いや要望は、家族にも伝えて共有しています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけでなく、拾いきれない見えない生活歴や思いもかけないご本人の思いの部分もあるので、日々関りの中で一つひとつ知る努力もしている。またその内容について情報共有しサービスに生かしている。	入居前の情報だけでなく、拾いきれない見えない生活歴や思いもかけないご本人の思いの部分もあるので、日々関りの中で一つひとつ知る努力もしている。またその内容について情報共有しサービスに生かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後はご本人の様子や言葉や思いを記録に残し、24時間シートを作成し日々の変化に気が付けるよう努めている。健康チェック表での体調の把握、食事量の把握、排便の把握を行っている。また毎日の表情や行動なども申し送りを行い職員間で現状の状況把握に努めている。	入居後はご本人の様子や言葉や思いを記録に残し、24時間シートを作成し日々の変化に気が付けるよう努めている。健康チェック表での体調の把握、食事量の把握、排便の把握を行っている。また毎日の表情や行動なども申し送りを行い職員間で現状の状況把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	立案されたケアプランを生活記録のファイルに挟み、職員が見ることで、日々の支援に反映し展開を行っている。また必要に応じ、他職種からも意見や支援を頂いている。一人ひとりの現状に合わせた介護支援の検討を職場会議でも行い、他職種からの意見も反映した計画作成も行っている。	立案されたケアプランを生活記録のファイルに挟み、職員が見ることで、日々の支援に反映し展開を行っている。また必要に応じ、他職種からも意見や支援を頂いている。一人ひとりの現状に合わせた介護支援の検討を職場会議でも行い、他職種からの意見も反映した計画作成も行っている。	介護計画は、利用者担当がADLや生活の状況等を踏まえた基本シートを作成し、それをもとに職員間で検討を行い、ケアマネにより作成されています。また、会議には、場合により法人の栄養士やリハビリ職員、往診のDrが加わり、介護計画の作成に参画しています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の変化や言葉を記録に残している。さりげない言葉の中にもいつもと違う発言や、行動があれば、職員間で情報の共有を行い、支援の見直しを行っている。事実をしっかりと捉えアセスメントし、計画の見直しに生かしている。	日々の生活の変化や言葉を記録に残している。さりげない言葉の中にもいつもと違う発言や、行動があれば、職員間で情報の共有を行い、支援の見直しを行っている。事実をしっかりと捉えアセスメントし、計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の変化していくニーズにも答えられるよう対応を心掛けている。日々の観察を行い、必要な情報については多職種とも情報の共有を行って対応している。最後の時まで安楽に過ごせるよう多職種との連携を行っている。	ご本人、家族の変化していくニーズにも答えられるよう対応を心掛けている。日々の観察を行い、必要な情報については多職種とも情報の共有を行って対応している。最後の時まで安楽に過ごせるよう多職種との連携を行っている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(①)	ユニット名(②)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、地域行事の未開催や縮小もあり、参加できていない行事もあったが、毎年恒例の味噌作りへの参加を行えた。コロナ後は、以前と同じよう地域のお祭り、災害訓練、文化祭等に参加し地域と交流を図れるよう地域との絆を大切にしている。また日々の様子は地域新聞の配布を行いわがやの様子を知って頂いている。	コロナ禍もあり、地域行事の未開催や縮小もあり、参加できていない行事もあったが、毎年恒例の味噌作りへの参加を行えた。コロナ後は、以前と同じよう地域のお祭り、災害訓練、文化祭等に参加し地域と交流を図れるよう地域との絆を大切にしている。また日々の様子は地域新聞の配布を行いわがやの様子を知って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時にはご家族も同席され本人、ご家族の想いも伝えている。かかりつけ医の変更時には家族と相談し納得を得ている。大きな変化がある時にはご家族に報告を行い、必要に応じ医療からの支持を頂いている。また受診時には、情報提供表の作を行い、ご家族が来所された時には文面だけでなくご家族様にも口頭で状況も合わせて伝えている。	往診時にはご家族も同席され本人、ご家族の想いも伝えている。かかりつけ医の変更時には家族と相談し納得を得ている。大きな変化がある時にはご家族に報告を行い、必要に応じ医療からの支持を頂いている。また受診時には、情報提供表の作を行い、ご家族が来所された時には文面だけでなくご家族様にも口頭で状況も合わせて伝えている。	かかりつけ医を基本に受診支援が行われています。事業所では、往診医が入っていることから看取りができることを予め伝えており、家族の意向を第一とした受診支援を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師、連携をしている同法人内の訪問看護ステーションとの連携もあり、早期発見、早期受診が行える体制が取れている。内服薬も看護師の指導の下で管理している。	施設内の看護師、連携をしている同法人内の訪問看護ステーションとの連携もあり、早期発見、早期受診が行える体制が取れている。内服薬も看護師の指導の下で管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はわがやでの日々の情報を提供しご本人、家族が安心して治療を受け、早期退院に繋げられるよう情報共有を行っている。入院中も連携室とも定期的なやり取りを行いご本人の様子を共有し、退院後の受け入れ体制を整えている。	入院時はわがやでの日々の情報を提供しご本人、家族が安心して治療を受け、早期退院に繋げられるよう情報共有を行っている。入院中も連携室とも定期的なやり取りを行いご本人の様子を共有し、退院後の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの説明を行い終末期をどこでどのように迎えるか家族とも確認を行っている。重度化したさい、再度ご家族の希望も伺い、ご家族が看取りを希望されたときには納得がいく形で終末期を迎えられるよう支援を行っている。職員も終末期における支援の仕方を学習し最期までその人らしく過ごして頂ける支援を努めている。	看取りの説明を行い終末期をどこでどのように迎えるか家族とも確認を行っている。重度化したさい、再度ご家族の希望も伺い、ご家族が看取りを希望されたときには納得がいく形で終末期を迎えられるよう支援を行っている。職員も終末期における支援の仕方を学習し最期までその人らしく過ごして頂ける支援を努めている。	看取りについての説明が行われており、事業所では、利用者がグループホームを我が家のように、穏やかに過ごせることを願い終末期ケアに取り組んでいます。職員については、看取り前の研修や看取り後のフォロー等を行い、その人らしい人生の最期を迎える支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制は確立されている。生活の中での体調変化に応じた、マニュアルを作成している。AEDを設置し、学習会にも取り組み、対応できるよう努めている。	急変時の連絡体制は確立されている。生活の中での体調変化に応じた、マニュアルを作成している。AEDを設置し、学習会にも取り組み、対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制も築いている	昼夜それぞれ想定した避難訓練や火災訓練、地震対応の訓練を入居さんも参加され行っている。地域との協力体制も取れている。	昼夜それぞれ想定した避難訓練や火災訓練、地震対応の訓練を入居さんも参加され行っている。地域との協力体制も取れている。	事業所は浸水の危険エリアに該当していますが、建物の3階ということで、地震、火災を想定した訓練が実施されています。火災訓練では、防火扉を開けて出火場所から離れる訓練の実施。また実際に3階から1階までエレベーターを使わない避難誘導も行っていきます。訓練には消防署にも入っていただき総評を頂いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけがフランクになってしまうことがあるが、人生の大先輩としても、相手への敬意は常に持って接している。一人ひとりの個々の人格を尊重し対応を行っている。、プライバシーや人権を考えたケアを行えるよう学習会も行っている。	言葉かけがフランクになってしまうことがあるが、人生の大先輩としても、相手への敬意は常に持って接している。一人ひとりの個々の人格を尊重し対応を行っている。、プライバシーや人権を考えたケアを行えるよう学習会も行っている。	トイレの言葉かけや入浴時のカーテンの徹底等に注意が払われています。言葉かけでは、利用者のプライドや尊厳を大切にされた対応がとられています。利用者の呼称については、基本的には苗字にさん付けをしているが、本人の希望に沿った呼び名で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人から発せられる言葉や、言葉で上手に伝えられない方は、表情や行動から思いをくみ取るようにしている。個々との関りの中からその人の思いを知り、考えることで自己決定ができるよう支援を行っている。	ご本人から発せられる言葉や、言葉で上手に伝えられない方は、表情や行動から思いをくみ取るようにしている。個々との関りの中からその人の思いを知り、考えることで自己決定ができるよう支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームわがや

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(①)	ユニット名(②)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や思いに合わせ離床や臥床の時間を調整している。自分の部屋が好きな方は部屋でゆっくり過ごす時間を大切にしている。個々その人らしさとは何か、想いも考え入居者さんとの時を大切に考えている。	一人ひとりの体調や思いに合わせ離床や臥床の時間を調整している。自分の部屋が好きな方は部屋でゆっくり過ごす時間を大切にしている。個々その人らしさとは何か、想いも考え入居者さんとの時を大切に考えている。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	整容については出来ることは見守、不十分な部分(整髪や髭剃り)については、支援を行っている。衣類が汚れていたり、髪が乱れている時には都度整えている。衣類に関しては本人が選んだ服や気に入っている服を着ていただいている。外出時には帽子やストールなどを着けお洒落も楽しませている。	整容については出来ることは見守、不十分な部分(整髪や髭剃り)については、支援を行っている。衣類が汚れていたり、髪が乱れている時には都度整えている。衣類に関しては本人が選んだ服や気に入っている服を着ていただいている。外出時には帽子やストールなどを着けお洒落も楽しませている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに応じたメニューや季節に合わせたメニューを提供している。行事食においては、職員が入居者さんと一緒に作ることも行っている。食事を楽しむ以外にも作る楽しみも提供している。食事後にはテーブル拭きや後片付けも一緒にやっている。	好みに応じたメニューや季節に合わせたメニューを提供している。行事食においては、職員が入居者さんと一緒に作ることも行っている。食事を楽しむ以外にも作る楽しみも提供している。食事後にはテーブル拭きや後片付けも一緒にやっている。	湯煎した食事を提供していますが、週に1回は食事づくりの場面が設けられており、利用者の好みや季節のメニューに沿った食事が提供されています。行事食やおやつ作りでは、利用者が付け合わせの飾りつけ等に参加されています。敷地内で収穫された野菜(キュウリやなす等)がサラダや炒め物として食卓に上がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の様子や健康チェック表を活用し摂取状況を把握し記録に残している。水分はこまめに、飲みたいもの、飲める物を提供し必要に応じて一日の水分量と排尿量も記録に残し医療へ伝えている。身体の状況に合わせて糖質の制限も行っている。食事の内容、形態については栄養士や看護師と相談し嚥下の面も考慮し食べられるよう支援している。	日々の様子や健康チェック表を活用し摂取状況を把握し記録に残している。水分はこまめに、飲みたいもの、飲める物を提供し必要に応じて一日の水分量と排尿量も記録に残し医療へ伝えている。身体の状況に合わせて糖質の制限も行っている。食事の内容、形態については栄養士や看護師と相談し嚥下の面も考慮し食べられるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る所はご自身で行って頂き、できない方や磨き残しのある方、仕上げが必要な方については介助を行っている。使用用具も個々の口腔内の様子に合わせて、歯ブラシ以外に口腔スポンジ、シートの活用もしている。食事以外の場面でも口腔内の観察を行い対応もしている。夜間は義歯の管理を職員が行っている。	毎食後口腔ケアを行っている。出来る所はご自身で行って頂き、できない方や磨き残しのある方、仕上げが必要な方については介助を行っている。使用用具も個々の口腔内の様子に合わせて、歯ブラシ以外に口腔スポンジ、シートの活用もしている。食事以外の場面でも口腔内の観察を行い対応もしている。夜間は義歯の管理を職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。排泄に時間を有する人には安全にゆっくり座って頂けるよう対応している。ADLに合わせ床に足がつかない人に対しては台を置き腹圧がかけられるよう対応もしている。また日中はなるべく綿のパンツにして生活を送って頂けるよう支援も行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。排泄に時間を有する人には安全にゆっくり座って頂けるよう対応している。ADLに合わせ床に足がつかない人に対しては台を置き腹圧がかけられるよう対応もしている。また日中はなるべく綿のパンツにして生活を送って頂けるよう支援も行っている。	入居の際に、リハビリパンツやオムツだった利用者に対して様々なアプローチを行う中で、布パンツへと移行する試みが行われており、排泄の自立に向けた支援に努めています。夜間については、見守りが必要な方はセンサーマットを活用した誘導、定時排泄による声掛けによる支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のコントロールについては医療とも相談し対応も行っている。なるべく自然排便をしていただけるよう、朝食時には乳酸菌飲料の提供、水分の促し、排便を促す茶の提供、食材面での工夫を行っている。	排便のコントロールについては医療とも相談し対応も行っている。なるべく自然排便をしていただけるよう、朝食時には乳酸菌飲料の提供、水分の促し、排便を促す茶の提供、食材面での工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分に合わせて声掛けを行い、入浴時間帯や順番も調整している。個浴でゆっくり入る方や、早々に出る方、室温やお湯の温度についても調整し、本人の好みに合わせた対応をしている。お風呂を楽しんで頂けるよう、バラ風呂や冬至のときにはゆず風呂にして季節感も感じて頂いている。	本人の体調や気分に合わせて声掛けを行い、入浴時間帯や順番も調整している。個浴でゆっくり入る方や、早々に出る方、室温やお湯の温度についても調整し、本人の好みに合わせた対応をしている。お風呂を楽しんで頂けるよう、バラ風呂や冬至のときにはゆず風呂にして季節感も感じて頂いている。	入浴は週に3回、午後の1時30分から16時30分の間に、一人ひとりの要望に応じた支援が行われています。また、職員体制に余裕がある時は、午前中から入浴時間が設けられています。介助は異性介助で行われていますが、希望により同性介助が行われます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った休息を取って頂けるように入眠時間や室温、掛物などの調整を行っている。寝返りが難しい方がいたら、体位調整も行い、安眠できるように対応している。	一人ひとりに合った休息を取って頂けるように入眠時間や室温、掛物などの調整を行っている。寝返りが難しい方がいたら、体位調整も行い、安眠できるように対応している。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームわがや		[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(①)	ユニット名(②)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたお薬の薬剤情報をチームで共有し、服薬支援に努めている。また、また、薬の変更があった際は副作用がでていないか記録に残すように努めている。	処方されたお薬の薬剤情報をチームで共有し、服薬支援に努めている。また、また、薬の変更があった際は副作用がでていないか記録に残すように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできること・できないことを理解し、できる力を引き出す支援を心掛けている。また、本人の気分もあるため、様子を見極めながら支援に努めている。	その方のできること・できないことを理解し、できる力を引き出す支援を心掛けている。また、本人の気分もあるため、様子を見極めながら支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんとの日々の関りのなか、さりげない会話の中からでも希望、要望に合わせ外出の企画を立て実行を行っている。またご家族にも入居者さんの思いを伝え、外出する予定も連絡を取り外出の支援を行っている。	入居者さんとの日々の関りのなか、さりげない会話の中からでも希望、要望に合わせ外出の企画を立て実行を行っている。またご家族にも入居者さんの思いを伝え、外出する予定も連絡を取り外出の支援を行っている。	コロナ禍の中で十分な外出は実施されていませんが、季節を感じられる外出として、桜見物や紅葉見物等の企画や、2~3人によるドライブ等の実施が考えられています。日常的な外出では、1階の駐車場を歩いたり、近くの神社までの散歩が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭のお預かりは行ってない。家族の了承のもとお小遣い程度の金銭を持っている方などは買い物等の支援を行っている。	基本的には金銭のお預かりは行ってない。家族の了承のもとお小遣い程度の金銭を持っている方などは買い物等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されたときには、家族と連絡も行われている。遠方のご家族とゆっくり話を行う時には自室で気兼ねなく話せるよう対応している。暑中見舞いや年賀状を送り、近況報告も行っている。	本人が希望されたときには、家族と連絡も行われている。遠方のご家族とゆっくり話を行う時には自室で気兼ねなく話せるよう対応している。暑中見舞いや年賀状を送り、近況報告も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清涼感や過ごしやすい調光、室温、湿度等を年間を通し調整を行っている。季節の行事に合わせた装飾飾りや生花、果物等も飾り季節感も感じて頂いている。換気については十分な注意を行っている。	清涼感や過ごしやすい調光、室温、湿度等を年間を通し調整を行っている。季節の行事に合わせた装飾飾りや生花、果物等も飾り季節感も感じて頂いている。換気については十分な注意を行っている。	車椅子の方がいらっしゃるが、広いスペースが確保されており、利用者は移動しやすく安全に過ごせています。また、ソファが設置してあり、利用者が数人集まるとの和気あいあいとした雰囲気が見られます。ひな人形を飾るなどの行事に応じた装飾をみんなで作るなどして、季節感を大切にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがあり、陽だまりの中、身を寄せ合って入居者さんどうしが話をしたり、うたた寝をしたり自由な環境がある。個々の時間を作れるようなテーブルもあり、一人でゆっくりと家事を行ってもらったり、作業を行って頂けるスペースも確保出来ている。席にはご本人の座布団があり、自分の居場所と思われる工夫がある。	リビングにはソファがあり、陽だまりの中、身を寄せ合って入居者さんどうしが話をしたり、うたた寝をしたり自由な環境がある。個々の時間を作れるようなテーブルもあり、一人でゆっくりと家事を行ってもらったり、作業を行って頂けるスペースも確保出来ている。席にはご本人の座布団があり、自分の居場所と思われる工夫がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の使い慣れた(家具や置物、寝具)もの思い入れがある(写真、ぬいぐるみ)物を持ってきて頂き、安心して生活が送れるような居室作りを行っている。またそれを見ながら職員や家族とも思い出話ができ、心地よく過ごせるような対応をしている。	入居時にはご本人の使い慣れた(家具や置物、寝具)もの思い入れがある(写真、ぬいぐるみ)物を持ってきて頂き、安心して生活が送れるような居室作りを行っている。またそれを見ながら職員や家族とも思い出話ができて、心地よく過ごせるような対応をしている。	入居の段階では何も設置していない為、使い慣れた家具などを持ち込んでもらっています。ペットの他にはテーブルやタンス、小物入れが持ち込まれています。好みのテレビを見たり、静かに塗り絵などをして過ごしたい利用者については、個室で心地よく過ごせるよう職員による配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力量に応じ安全に自立した生活が生活が送れるよう工夫している。必要な場所(トイレ、浴室、廊下等)には必要な補助用品(手すり、滑り止め)を設置し生活動作に合わせた行動ができる工夫を行っている。居室にいる時には見守りが十分にできないことも考えセンサーマットの活用もしている。	一人ひとりの力量に応じ安全に自立した生活が生活が送れるよう工夫している。必要な場所(トイレ、浴室、廊下等)には必要な補助用品(手すり、滑り止め)を設置し生活動作に合わせた行動ができる工夫を行っている。居室にいる時には見守りが十分にできないことも考えセンサーマットの活用もしている。		